

平成21年度 津山市の教育方針と施策

昨年度の組織機構改革により、教育委員会の事務局体制が大幅に改編されました。市長部局で補助執行を行うことになった、幼児教育、文化振興、市民スポーツ、生涯学習の4部門を含め、教育方針に基づく適正な執行体制を確立し、教育委員会と市長部局が一体となって、津山市教育の一層の充実を図っていきます。

また、本市においても教育委員会の責任の明確化、自己評価の実施と公表など開かれた教育委員会への取組を進めながら、全国学力・学習状況調査実施、学習指導要領改正などの公教育の再生を進める改革へ対応してきました。その一方で、青少年の問題行動も相次ぎ、昨年10月には青少年育成3団体と共同で「津山で育って良かった 津山っ子育成アピール」(P7参照)を発表しました。基本的な生活習慣を見直す「60・15キャンペーン」(P20・26参照)とともに本市独自の取組を進めています。

さらに今年度、生涯学習・学校教育の活用が期待される新津山洋学資料館の開館を迎えることともに、平成22年秋に開催される「第25回国民文化祭・おかやま2010」の準備に取り組んでいきます。

こうした状況を踏まえ、「しあわせ大国つやま」の教育を進めるため、平成21年度は次のような方針に基づき施策を実行していきます。

【用語解説】

■「津山で育って良かった 津山っ子育成アピール」(以下 津山っ子育成アピール)

今日の児童生徒の規範意識や家庭での学びが課題となる中で、家庭や地域との協力による具体的な行動連携を、広く市民に呼びかけたアピール文。平成20年10月31日に、教育委員会と健全育成関係3団体が共同で発信した。

■「60・15キャンペーン」

平成18年7月に実施した「子どもの生活実態調査」から、60分早く寝て、15分早く起きる子どもは、朝ごはんを毎日食べているという結果が明らかになった。基本的な生活習慣の定着を目指し、津山市独自で「60分早寝・15分早起き・朝ごはんを食べよう」の取組を継続的に推進している。



ろくまるくんといちごちゃん
津山で生まれた「60・15キャンペーン」の
マスコットキャラクター

共同アピール



津山で育って良かった 津山っ子育成アピール

◆津山っ子を学校、家庭、地域みんなで育てましょう

津山市は、昔から美作の中心地として栄えてきました。江戸時代には宇田川家、箕作家をはじめとする洋学者が活躍しました。最近では、B'zの稲葉浩志さん、北海道日本ハムファイターズの高橋信二選手、宝塚歌劇団の桜乃彩音さんなどが活躍し、多くの人々に夢を与えています。

今、急激な社会の変化の中で、津山の子ども達にも心配なことがいくつか出てきています。例えば、家庭でのテレビやゲームの時間が長く、家庭学習の時間は短いことです。また、携帯電話、インターネットをめぐるトラブル、学校や社会のルールが守れなかったりすることも気になるところです。

これらの課題には、もはや、学校だけでは、対応できない時代です。

今こそ、未来の津山を担う子どもたちが「津山で育って良かった」と実感でき、誇りに思えるよう、津山っ子をみんなで育てようではありませんか。

□ 保護者のみなさんへ **よく話し合い、しっかり見守る**

- 暴力、いじめは絶対許されないことを家庭でしっかり話し合ってください。
- 社会のマナーやルールを子どもたちに家庭でも教えてください。
- テレビやゲームの時間、携帯電話の使い方を家庭でしっかり話し合ってください。
- 家庭で学習する習慣（宿題、予習、復習）をしっかりつけてください。

□ 児童生徒のみなさんへ **ルールを守ってよく遊びよく学べ**

- いじめ、暴力は絶対にしない、させない、ゆるさない、という気持ちをもとう。
- 友だちとしっかり遊び、思いやりの心をもとう。
- 決められたルールは守り、みんなが気持ちよくすごせるようにしよう。
- 自分で目標をもち、勉強に運動にしっかり取組もう。
- 地域の行事に進んで参加し、支えてくださっている地域の方々に感謝の気持ちをもとう。

□ 地域のみなさんへ **地域の子どもたちのことを知ってください**

- 非行やいじめ、暴力を見逃さないで、子どもたちに声をかけてください。
- 学校での行事や学校公開に参加し、学校や子どもたちを知ってください。
- 地域の子どもたちにしっかり声をかけてください。
- 地域の行事に子どもたちと参加し、地元の子どもたちとふれあう機会を作ってください。

平成20年10月31日

津山市教育委員会
津山市PTA連合会
津山っ子を守り育てる市民の会
津山市青少年育成指導委員連絡会

「おかやま教育の日」関連事業